

北西大西洋マツイカ日・米・加3国共同調査報告

川 上 武 彦* (東海区水産研究所)

畑 中 寛 (遠洋水産研究所)

要 約

昭和57年1月～3月、北西大西洋漁業機構 (NAFO) 水域において、水産庁調査船開洋丸によりマツイカ (カナダイレックス, *Illex illecebrosus*) の調査を行ったのでその概要を報告する。この調査報告書**はすでに昭和57年11月に発表されているので詳しくはそれをご覧いただきたく、ここには要点のみ記す。

1. NAFO水域においてマツイカはわが国の漁船の重要な対象資源であるが、近年漁獲量が急増しNAFO関係各国の関心も高まりその調査協力も増大している。しかし、このイカについての知見はほとんどが漁業の行われている陸棚上での生活期 (索餌期) に限られているので、今回の調査は外洋生活期 (産卵期及び加入前期) における知見の収集を狙って行われたものである。なお、本調査は米・加から各航海2名ずつ、延8名の研究者が参加しての3国共同調査であった。
2. 開洋丸は56年11月28日東京港を出港し、57年4月26日同港に帰港したのであるが、漁場における調査は、57年1月16日ニューヨークを出港して2月5日ハリファックス (カナダ) に入港するまでと、2月11日にハリファックスを出港して3月5日セントジョージ (バミューダ) に入港するまでの2航海、ともにニューヨーク沖からハリファックス沖にわたる、主として湾流以北の水域で行われた。
3. この調査によって従来極めて僅かしか採集されなかったマツイカの稚仔 (リンコトウチオン) が1,000個体以上、また幼イカも約4,300個体採集された。稚仔の大きさ、出現時期、出現位置、湾流の流速、流路など総合して、マツイカの産卵はハテラス岬からフロリダ半島にかけての湾流域で、遅くとも1月初めから1月末までに行われ、湾流内で孵化した稚仔は成長しつつ下流域へ移送されて行くなかで、湾流の北縁及びその北側の潮境域に集積されることが推測された。

* 現、日本水産資源保護協会

** 水産庁 (1982) 昭和56年度開洋丸調査航海報告書 (北西大西洋マツイカ日・米・加3国共同調査)

4. また、この調査中、中層杣網及び中層トロールによりマツイカのほか主として中深層の約 60 種の頭足類，約 290 種の魚類，約 30 種の甲殻類が採集され，今後，わが国の研究に多大の便宜を与えるものと考えられる。

質 疑

奥谷（科学博物館）：調査海域で出現したリンコトッチオンのうち *Illex* と *Onychoteuthis* は相対的にはどちらが多かったか。

川上：*Illex* が多かったと思います。

畑中：20 日位の航海を 2 回やり，マツイカの稚仔とされる C' 型タイプのを，約 1,100 個体採集しました。その他に A 型と B 型と分けられているものは，10 個体以下と思っています。

安達（島根県水試）：1～3 月の調査期間に，調査海域において親イカの漁獲は如何でしたか。

川上：親イカの漁獲は皆無でした。おそらく，産卵がおそくとも 1 月中であろうことによると考えられ，もっと早い時期の調査が必要と思います。